

令和2年6月18日
(資料提供)

(事務担当)

所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病害虫防除室
直通：257-6972

令和2年度病害虫発生予報第3号について

今後発生が予想される水稻、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 6月下旬～7月上旬

2 予報内容

(1) 水 稻

いもち病の発生は**やや多**と予想される。一旦発生すると急進展する恐れがある。発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。

紋枯病の発生は**多**と予想される。前年に発生したほ場や茎数の多いほ場は多発する可能性がある。粉剤での防除は、イネの出穂前10～14日が適期である。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。生息密度を下げるため、7月上旬まで生育場所となる農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。

海外飛来性害虫(主にセジロウンカ、コブノメイガ)、**フタオビコヤガ**の発生は**やや多**と予想される。当面の防除は不要であるが、今後の情報に注意する。

(2) 大 豆

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

(3) 果 樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する【病害虫発生注意報第1号(令和2年6月18日付)参照】。

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4) 野 菜

アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底し、ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。